

編集後記

■編集委員 (50音順)

伊熊健一郎	岩崎昭憲	小澤壯治	北島政樹
北野正剛	清水一雄	徳村弘実	東原英二

第18回サッカーワールドカップがドイツで行われ、イタリアの通算4回目の優勝に終わった。われらの日本代表は、残念ながら1勝もすることなく予選敗退となった。国民の多くは、この4年に一度開催される地球レベルの大イベントにテレビを通して観戦し一喜一憂したことであろう。それと同時に、世界のサッカー一流国と日本サッカーとの実力の差を感じた方々も多いと思われる。

では、世界におけるわが国の内視鏡外科はどうであろうか。内分泌外科、特に甲状腺を主体とした内分泌頸部内視鏡外科を専門とする私が、わが国の内視鏡外科全体を論じるのはいささかおこがましいが、感じたことを述べたい。

今号の特集にみられる胆嚢の内視鏡下手術を世界で初めて行ったのは、1987年フランスのDr.Philippe Mouretによるとされている。以来、徐々に本術式は世界へ広まっていくが、わが国では1990年、帝京大学溝口病院外科の山川達郎教授により初めて導入された。その後、様々な分野、多くの科においてその低侵襲性と整容上の利点ゆえに、わが国の内視鏡下手術は急速な発展を遂げているのは周知のごとくである。私の関係する内分泌外科分野の甲状腺、副腎に対する内視鏡下手術は、欧米諸国に対し、その症例数においても成績に関しても勝るとも劣らないと思っている。

日本の内視鏡外科学会で、世界に誇れるわが国独自の制度が発足し軌道に乗りつつある。日本内視鏡外科学会技術認定制度である。社会のニーズにも呼応しつつ個々の内視鏡技術を公正に評価し学会で認定しようというものである。申請者は自分の無修正手術ビデオを提出し、学会で認定された審査委員から技術評価を受けることになる。内視鏡下手術を安心して任せることのできる医師を評価し、公にすることで、お互いの信頼関係を保ち手術に臨むことができるという意味で大変有用な制度である。それと同時に、評価者は公平、正確かつ緻密な審査が必要であることを再確認しなければならない。

この制度に代表されるわが国の内視鏡外科に対する真摯な姿勢と技術の進歩、またそれをサポートする内視鏡機器類の発展とともに、近い将来、日本内視鏡外科学会は名実ともに世界をリードする立場として発展していくことを願っているし、そうなると確信しているところである。

(清水一雄)

日本内視鏡外科学会雑誌 (第11巻 第4号) 2006年8月15日発行・隔月刊

Journal of Japan Society for Endoscopic Surgery (Tokyo)

1部定価: 会員には毎号送付されます。その他については、1部定価 2,835 円 (本体 2,700 円 + 税 5%) となります。

2006年 年ぎめ予約購読料: 16,500 円 (税込) (配送料: 医学書院負担)

編集・発行: 日本内視鏡外科学会 (代表: 北島政樹)

〒162-0802 東京都新宿区改代町 26-1-B03 有限責任中間法人学会支援機構内

(☎ 03-5206-6007 Fax 03-5206-6008 担当: 佐々木) <http://www.jses.org>

Published by Japan Society for Endoscopic Surgery, 26-1-B03 Kaidaicho Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0802, Japan

©2006, Printed in Japan

発売: 株医学書院 (代表: 金原 優) (本誌担当: 藤田, 中田) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

<http://www.igaku-shoin.co.jp/mag/jses/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 5-24-3 (振替口座 00170-9-96693 番)

本誌編集室直通 ☎ 03-3817-5707 (Fax 03-3815-7802 E-mail: jses@igaku-shoin.co.jp)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660 (Fax 03-3815-7804)

印刷所 横山印刷(株) ☎ 03-3622-6161 (Fax 03-3625-1591)

広告申込所 (株) 文栄社 ☎ 03-3814-8541 (Fax 03-3816-0415)

本誌の内容を無断で複写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますのでご注意ください。